

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170103689
法人名	(有)ケアパートナー
事業所名	グループホーム もも太郎
訪問調査日	平成 20 年 2 月 13日
評価確定日	平成 20 年 4 月 30日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査結果概要表

作成日 平成20年 4月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103689		
法人名	(有) ケアパートナー		
事業所名	グループホームもも太郎		
所在地	岐阜市御望3丁目68番地 (電話) 058-293-0669		
評価機関名	NPO法人 旅人といよの会		
所在地	大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成20年2月13日		

【情報提供票より】(平成20年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7.4	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱費12,000、おむつ代実費、管理費A)8,000又はB)2,000	
敷 金	(有) 100,000 円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) 100,000 円)	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	14 名	男性	0 名	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名	
要介護3	5 名	要介護4	1 名	
要介護5	1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 81.8 歳	最低 69 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岐阜中央病院 福富医院 のぞみ歯科		
---------	-------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岐阜市の西に位置し自然に囲まれた住宅地にある。広いダイニング・リビングではゆったりのおんびりと、また居室はそれぞれに持ち込んだ思い出の家具と共に、プライバシーが守られた生活ができる。ホームの理念に、「その人の思いを大切にしていくケア・その生き方を大切にできるケア・その人の強みを大切にするケア」を掲げ、ひとり一人の個性を大切に考え、自立支援を、職員とともに管理者自らケアの実践に努めている。また法人代表自らが管理者でもあることが、思い切った設備や備品の導入等にスピーディーな判断がなされ、常に充実が図られてきた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった「玄関扉の外で履物を脱ぐ」つくりの違和感については、玄関外側に風除室としての機能も確保した靴脱ぎ場が作られている。また、地域との関わりでは、自治会に入会し、回覧板も回って来るようになった。また権利・義務については重要事項説明書に記載されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	「ホームのPRにもなり、ホーム全体としての見直しの機会にもなる」と、とらえ、普段のありのままを見てもらうようスタッフやホーム長、主任と相談して自己評価にあたった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には、岐阜市の介護保険課、民生委員、利用者者家族などの参加があり、主な討議内容は、ホームの様子の報告や事例検討、認知症の勉強などを行なった。また、緊急時対応に関するマニュアル作りでは地域の協力を元に話し合いで決めることができた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月料金支払いは直接ホームに来てもらっているため、その時に家族の意見を聞き、対応するようにしている。今まで、苦情は無いが、「いつまで見てもらえるか」という電話による不安相談があった時は、医療との連携体制があり、必要な時は病院や施設へ支援をする体制の確立ができており、「家族や本人の希望でいつまでも良いこと」等々を伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の喫茶店に出かけたり、散歩途中には近所の人と挨拶を交わし、畑で取れた野菜や果物などのいただき物をするところがある。自治会に入会することで地域とのつながりもでき、運営推進会議には民生委員の参加も得られ、お互いの情報交換と理解に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<もも太郎の誓い>として、「その人の思いを大切にしていけるケア」「その生き方を大切にするケア」「その人の強みを大切にするケア」を理念につくりあげている。		さらに、地域生活の継続がイメージできるよう、地域との関係性も理念に反映されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	随時ミーティングを行い、ケアの見直しを通して理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、総会や班会等の会議には参加し、地元の人との交流やホームの理解が得られるよう努力はしている。畑で取れた野菜や果物をいただくこともある。		地域の行事には参加できていないので、利用者とともに交流できるよう、まずはホームの行事に地域の人々を招いたり等、ホームからの働きかけを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「ホームのPRIにもなり、ホーム全体としての見直しの機会にもなる」と、とらえ、スタッフや管理者が話し合い自己評価にあたっている。また前回の外部評価の結果を踏まえ、改善項目を明確にし改善に向けての検討により、玄関の靴脱ぎ場の改造も行なわれ、実践につなげる努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、岐阜市の介護保険課、民生委員や家族などの参加があり、ホームの取り組みや様子を報告し事例検討、認知症の勉強会を行い、地域の理解と支援が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	岐阜市介護保険室や生活福祉室とも連絡を取り合い、各種申請や変更の相談を持ち掛けたり、情報収集にも努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、月に1回は利用者に会いに来てもらうことを目的に、毎月の支払いを現金持参払いシステムとしている。訪問時にはホームでの暮らしぶりやエピソードを話し、立替払いの金銭報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部苦情申立て機関が明記され、玄関に相談・苦情箱を設置し、家族の訪問時に相談や意見などを聴く場面作りをしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ケースバイケースではあるが、利用者のダメージ防止の配慮をしながら、退職や新しい職員を、利用者で紹介している。家族にはホームへ訪問された時に挨拶している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は実践者研修・実践者リーダー研修等を受講し、職員に伝達することでスキルの向上を図っているが、職員の研修はまだ実施できていない。		勉強会、外部研修等の情報提供と共に、研修の機会を確保する為に、職員と十分話し合いながら年間計画の中で実践者研修を位置づけていくことを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域の同業者と電話や訪問などを行い交流する機会があり、運営推進会議で地域のグループホームにも参加を呼びかけ交流を図ろうとし始めている。		管理者が、取組もうとしているネットワーク作りや勉強会の機会作りに、スタッフと一緒に協働しながら、ケアの質向上に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所相談時に利用者・家族のホーム見学や体験入所により、徐々に馴染めるよう要望を聞いたり、家族の思いを受け止めるように努めている。また入所時には、引越し手伝いに自宅を訪れることもあり、ホームへのスムーズな入所の一助としている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>鍋料理の得意な利用者には買い物から一緒に出かけ教えてもらったり、折鶴を作るのが得意な利用者から教えてもらいコミュニケーションをとりながら和やかな生活ができるよう場面作りをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前の生活の様子やひとり一人の思い・暮らし方の希望を把握し、ホームから利用者の家に行き環境や雰囲気が理解できるよう写真を撮り、ケアに活かす配慮がある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所前や引越し手伝いに訪問した時には、自宅の雰囲気や自宅での利用者の様子を体感し、家族の希望も受け止める。日々の関わりの中では利用者の思いを把握し、家族からは訪問時に意見・要望を聞く努力がある。スタッフ全員でミーティングを行い利用者本位の介護計画作成に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には、3ヶ月に1回または、利用者の状態の変化に応じてモニタリングをし、介護記録や家族の意見要望も踏まえ、ケアプラン作成検討会議・評価を行い、介護計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診への通院介助や入所前の体験入所を実施している。また一時的な緊急入所もできる支援体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の要望により、かかりつけ医に受診できるよう支援している。認知症専門医に受診ができ、適切な治療を受けたり医師に相談することができる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りのケースはまだ無いが、訪問看護ステーションと連携し、入所の段階で看取り指針を説明し早い段階から方針を定め希望に応じる用意がある。		状況変化に応じ、利用者や家族の安心と納得が得られるよう、くり返しの話し合いを行い、支援につなげていくことを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導する時は、プライドを傷つけないように他の人に聴こえないような配慮をしている。入浴はひとり一人対応しプライバシーを損ねないようケアを行なっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所時に、それまでの暮らしのパターンを利用者や家族から聞いたり、その日、その時の利用者の気持ちを尊重して、散歩や買い物などできるだけ個別性のある取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を聞いて一緒に買い物に行き、下ごしらえ・調理・食事・後片付けなど、利用者の出来ないところを支援し、利用者ひとり一人の力を活かせる場面作りをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきに入ることができ、利用者の希望や体調に合わせて入浴を楽しみ、入浴のない日は足浴の支援を行い、良眠できるようになった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少し支援すれば出来ることを見つけたりしながら、ひとり一人の力に合わせて、洗濯干し、芋の皮むき、食卓の準備、食後の後片付けなどの役割や散歩に行く楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近隣を散歩したり、希望により喫茶店や、ドライブ、外食をしたりすることもある。また建物南側には、風雨避けの囲いのあるウッドデッキや中庭が有り、いつでも外に出られる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため一般家庭にあるような施錠はしてあるが、内部からは自由に開けることができる。リビングの施錠は開放しており、ウッドデッキから外へ出ることができる。さりげなく声掛けしたり、一緒についていく等、安全面に配慮し自由な暮らしの支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急マニュアルは作られているが、定期的な避難訓練は行なわれていない。災害備蓄として、食料3日を確保している。		地域住民の参加、協力を得ながら定期的な避難訓練の実施を希望する

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ひとり一人の食事や水分の摂取量を把握している。利用者の嗜好や栄養のバランスにも配慮して献立をしている。</p>		<p>職員に調理師が居て栄養面の考慮もしてはいるが、栄養士に相談することも期待したい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には季節の草花があり、季節感を味わうことができる。リビングが広く、ゆったりとしたソファやダイニングテーブルが配置されている。気になる臭いや音もなく、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に家で使用していた馴染みの物を持参してもらおう働きかけて、ベット、タンス、ソファ、コタツ、家族写真などを置き、利用者の意見を尊重し、生活しやすい居室作りを心掛けている。また、北側の窓には防寒シートを貼り保温の配慮がある。</p>		